

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUHAKU

2021.11 No.110

トピックス

- ・特別展「津山藩士・飯塚竹斎とゆかりの画人
—絵を描いた武士たち—」
- ・夏の学習プログラム「勾玉をつくろう!」
- ・学芸員実習

研究余録

- ・津山藩での鼠小僧の被害 梶村 明慶

資料紹介

- ・日下賢二の木版画 小郷 利幸

お知らせ

- ・ミニ企画展「むかしむかしの子どもたち」
- ・ミニ企画展「お正月—虎—」
- ・企画展「郷土の刀剣—新刀から現代刀まで—」



特別展「津山藩士・飯塚竹斎とゆかりの画人 —絵を描いた武士たち—」を開催しました。

令和3年度特別展「津山藩士・飯塚竹斎とゆかりの画人—絵を描いた武士たち—」を令和3年10月16日（土）～11月21日（日）の会期で開催いたしました。

津山藩士で文人画家でもある飯塚竹斎は藩の御用絵師ではありませんでしたが、すぐれた才能を発揮し、多くの作品を残しています。令和3年はその竹斎の没後160年にあたり、これを記念して地元津山に残されている竹斎の作品を中心に、その周辺の人々の作品を展示しました。

また、11月7日は岡山県立美術館の古川文子氏、倉敷芸術科学大学芸術学部 教授森山知己氏をお招きしご講演いただきましたところ、50人余りの多くの方に聴講をいただき盛会の内に終了することができました。

演題：「資料から見える藩士としての飯塚竹斎」
「竹斎の作品と交友」
「筆墨の語る世界」

津山郷土博物館 学芸員 梶村 明慶
岡山県立美術館 学芸員 古川 文子氏
倉敷芸術科学大学芸術学部 教授 森山 知己氏



展示の様子



講演会の様子 講師 岡山県立美術館 古川文子氏



講演会の様子 講師 倉敷芸術科学大学芸術学部 教授 森山知己氏

令和3年度 夏の学習プログラム「勾玉をつくろう！」を開催しました。

8月3日・4日の2日間、2年ぶりに夏の学習プログラムを開催しました。コロナ禍の中で“三密”を避け、開催できるものを職員で話し合い、今年度は「勾玉をつくろう！」のみの開催になりました。

参加者の皆さんは、勾玉づくりを熱心に取り組み、とても素敵な勾玉ができあがりました。夏休みの宿題や宝物にするそうです。

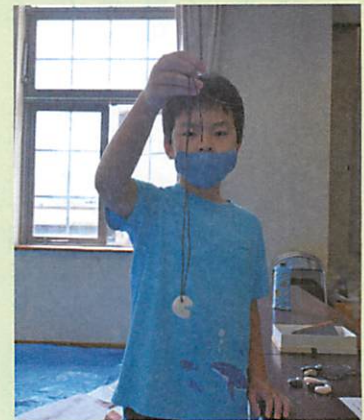


北小学校1年生 小川紗奈さん

けずるのがたのしかった。むずかしそうだったけどたのしかった。

高野小学校2年生 木田志織さん

さいしょはざらざらでしかくだったけど、みがいたりけずったら、ピカピカでつるつるになったのがびっくりした。わたしがくふうしたのは、つるつるになるまでみがいたことです。



院庄小学校3年生 大國未空さん

勾玉を丸くするのがむずかしかったです。勾玉はいろいろなしゅるいがあることをはじめてしりました。勾玉をつくるのがむずかしかったけど、またつくりたいです。



広戸小学校4年生 加田偉琉くん

へこみを作るのがむずかしかった。丸くするのがむずかしかった。うでがいたくなかった。楽しかった。

学芸員実習生を受け入れました

7月29日・30日、8月3日～6日まで、博物館実習生を3人受け入れました。博物館実習は、学芸員資格取得のために必要な科目の一つで、当館では美作地域にゆかりのある方の実習を毎年受け入れています。

今年度は、特別展から常設展への展示替え、ミニ企画展の準備、写真撮影や資料整理、子ども向けパンフレットの作成など、博物館の様々な業務を行いました。新型コロナウイルス感染予防のため、毎年行っている夏休みの子供向け講座の補助をとりやめるなど、配慮しながらの実習となりましたが、無事全日程をこなすことができました。

津山藩での鼠小僧の被害

梶村明慶

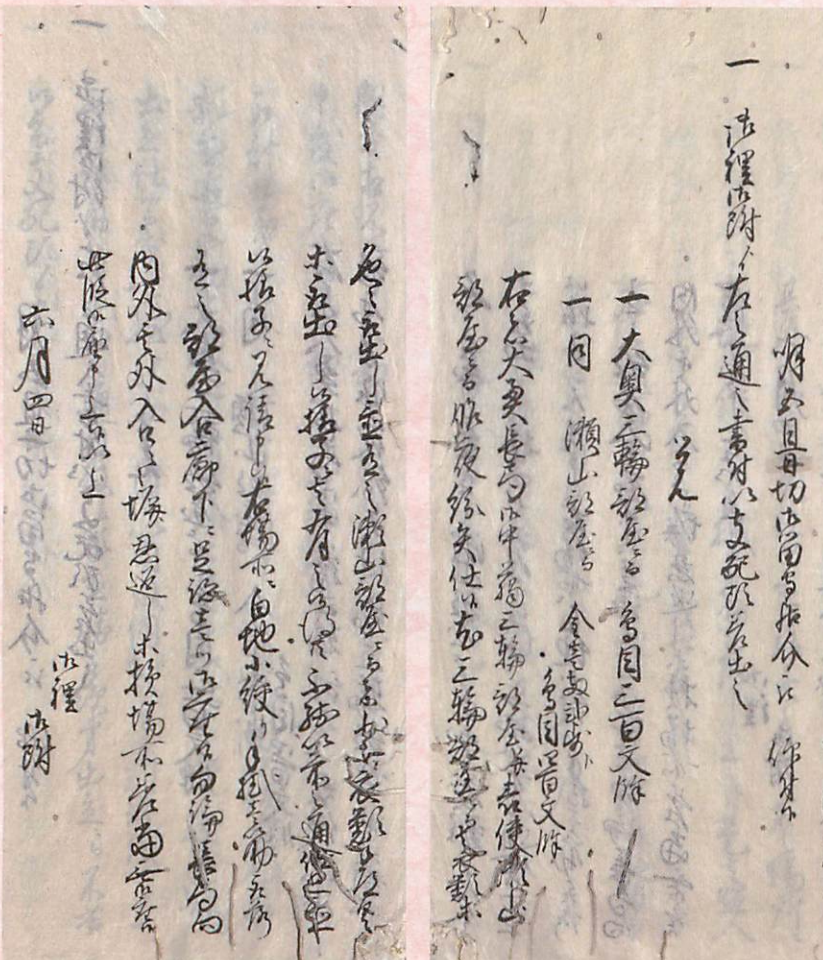
時代劇に度々「義賊」としてよく描かれる鼠小僧次郎吉は江戸で主に大名屋敷などへ盗みに入っていた実在の盗賊でした。天保三年（一八三二）に捕まり処刑されています。取調の記録である『鼠賊白状記』（国立公文書館蔵・明治期の写し）には本人が覚えているだけで、九十九箇所の大名屋敷を合計百二十一回忍び込み、およそ金三千百二十一兩二歩、銭九貫二六〇文、銀四匁三分を盗み取ったとあります。この調書には個別案件として文政六年（一八二五）六月三日の夜に津山藩邸に盗みに入った旨の記述があります。津山藩の江戸日記の翌四日の記事にも盗難被害の記事があり、日時、被害額などが一致することからこの事件は鼠小僧によるもの間違いのないようです。

日記には津山藩邸の奥向き長局の女中部屋二箇所の箆筒から金一兩二歩、銭七〇〇文が盗まれたとあります。一方の部屋は箆筒から衣類が抜き出された状態で鳥目（銭）が無くなっており、もう一方では衣類が元通り箆筒にしまわれた状態で金一兩二歩が無くなっていました。また、現場には犯人のものと思われる白地小紋りの手拭が一つと廊下に足跡がなかつたとのことでした。

この一件、金子以外、衣類や道具類など盗まれていなかったため、外から忍び込んだ者ではなく内部の人間の犯行だと津山藩は判断したようで、幕府には届けることはありませんでした。鼠小僧の自白の裏付けのためと思いますが、天保三年の五月十一日、町奉行から十年程前に奥向で盗難の被害がなかつたかとの問い合わせがあった際、幕府に前述の理由で内部犯行と判断したため届けなかつた旨を報告しています。

結局、鼠小僧の一件については、不行届なしということで、津山藩を含め盗みに入られた諸藩はお構い無しとされ、大名家がとがめられることはなかつたようです。

ちなみにこの『鼠賊白状記』には鼠小僧が大名家の奥向きをねらった理由として、大名屋敷は一旦中に入ってしまったら盗みを働くことが容易で、特に、奥向きには女性しかおらず、見つかっても男性の役人が簡単に入つてこれないため逃げやすいと述べています。屋敷内を容易に動けたのは、大名は幕府の目をはばかって厳重な警備ができなかつたためとも言われています。津山藩も鼠小僧の思惑にはまりしてやられたようです。



江戸日記 文政6年6月4日

くさかけんじ 日下賢二の木版画

小郷利幸

はじめに

日下賢二（1936～2020、写真①）は、津山市出身の版画家で、令和2（2020）年に親族の方から版画など302件360点に及ぶ資料をいただきました。いただいた資料のうち、特に版画について少しでも紹介できればと思います。

彼は小学校4年生の頃から絵に興味があり、特に版画家をめざすきっかけとなったのは、昭和24年頃の絵の夏季講習会に参加

した事で、その時の講師が版画家永礼孝二（1901～1975）でした。永礼は同郷の版画家で、この講習会をきっかけに版画に興味を持ち、永礼の手伝いをしながら多色木版画を学んだそうです。

また、版画家棟方志功が設立した日本版画院展にも出品し、昭和28（1953）年には版画院賞を受賞、岡山で開かれた棟方の展覧会で、永礼とともに棟方にも会っており、その時の出来事を「忘れることのできない思い出」と回想しています。

その後、同33（1958）年に上京し、日本版画院会員、日本版画協会会員、国画会会員となり、日本のみならずブラジルやイタリア、スイス、ベルギーなどの美術展にも出品し、同41（1966）年には東京国際版画ビエンナーレ展で国立近代美術館賞を受賞されるなど、国内外で活躍され、東京国立近代美術館やワシントン国会図書館、コロラド州立近代美術館などに作品が所蔵されています。

作品紹介

（一）木版画

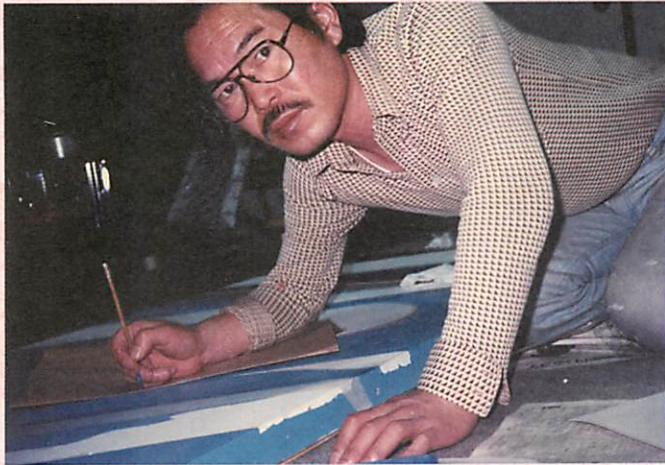
木版画は、油絵具を用いて原色で色彩した多色刷りで、作品の中には抽象的な表現

のものが見られ、その他風景、風物画などがあります。今回いただいた作品は抽象画が多く、版画で抽象画を描くのは珍しいのではないかと思いい、その作風の特徴を中心に時代ごとに紹介します。

○風物・風景画（1950年、写真②、1956年頃、写真③）

②は植物のヤブカンゾウを細部まで細かく表現しています。③は津山城跡から吉井川や城東の街並などを見下ろし、遠くに山並みを見渡す津山の風景です。他に野菜などを描いたもの、竹をモチーフに抽象的に表現した作品もあるようです。②には□の中にクサカと書いたサインがあります。これら風景・風物画は1950年代から60年代初期の作品で、その画風から師である永礼の影響を受けていることが伺えます。

○抽象画【短冊風など】（1965年、写真④）その後作風が大きく変わり、④はオレンジ色の原色をベースに黄色や青色などの角の丸いものや先の尖った短冊状のものを平行、斜めに配列し、抽象的に表現した今までに無いモチーフの作品です。ジッパのようなものもあり、主に1960年代から70年代初めの作品です。これらには作品名は付けられていないものが多く、このころから



写真① 日下賢二製作風景（1987年）

抽象画が本格的に作られ始めます。津山市内の津山信用金庫本店には全長15mもの大壁画（1971年）があり、見ることができます。

○抽象画【白い雲や球体など】（1973年、写真⑤）

⑤は雲と青い空に白い卵のような球体や青い四角い窓のようなものを浮かべて空間構造を表現した、一見SFタッチな作品となり、1960年代終わりから70年代の作品です。

○抽象画【割れた木材風など】（1981年、写真⑥、1985年、写真⑦）

⑥⑦は直線と木材風のモチーフを断ち割って鋭い切れ目を表現した独特のもので、赤と青がベースになるものがあり、「地平線」や「境界」、「飛翔」といった作品名がつけられています。彼にとって地平線とは、故郷と異郷、現実と夢などを交錯させ、それらを包括する境界と考えられており、それらを彼なりに直線などによる区画に様々な形を加えることで表現しているものと考えられます。1970年代終わりから80年代の作品です。

（二）関連資料

今回作品以外に関連資料も多数いただきました。それらは1950年代の若い頃のものやほとんどを占め、スケッチブックなどには、風景や人物、静物などが多数描かれ、

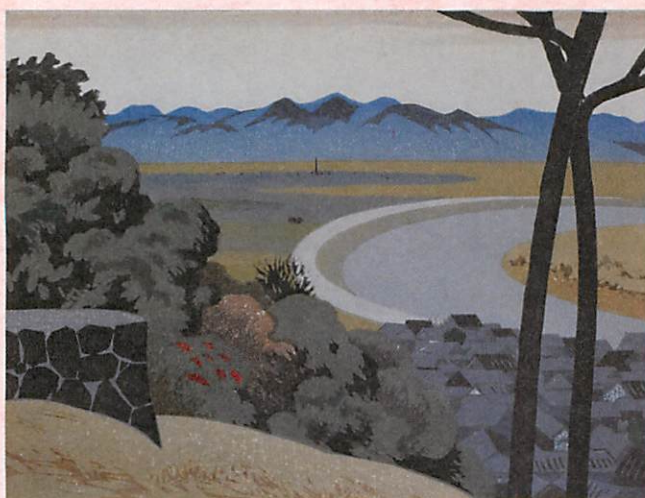
版画とは違ったものとして大変興味深いです。その他版木もありますが、抽象画の作品に関係するものはないようです。ただ初期の作品の原画が数点有り、その中に数字が書かれていて、製作過程がわかるもの（写真⑧右）がありました。1と書かれた部分を刷った製作途中のものがあり（写真⑧左）、製作過程の一端が見て取れます。

おわりに

今回の資料紹介から、多色木版画による初期の風景・風物画から抽象画にいたる作品の変遷をたどり、さらに抽象画の中には彼の思いが強く表現されており、なかなか簡単には紹介しきれません。また、特に抽象画の作品が出来るまでの製作過程がどのようなものであったか大変興味深く、おそらくかなりの製作技術や労力が必要であったと考えられます。



写真② ヤブカンゾウ（1950年）

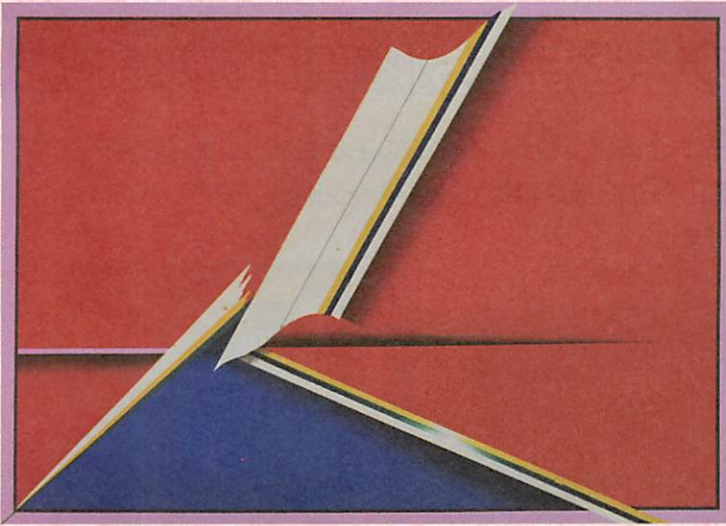


写真③ 津山風景（1956年頃）

今回紹介できたのは、いただいた資料の一部のみです。今後は展示をとおして、作品のみならず製作技術なども紹介できればと考えています。なお、資料整理は本館の小林泰子がおこない、資料紹介するにあたり、以下の文献を参考にしました。

（参考文献）

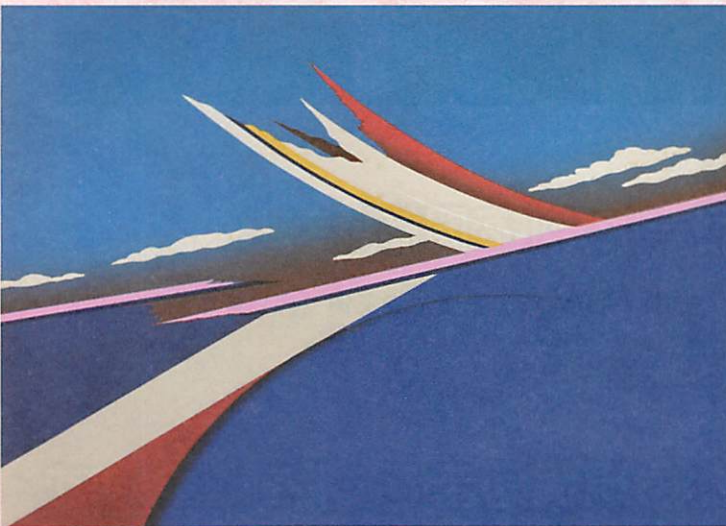
針生一郎1983「木版における抽象の可能性―日下賢二を中心に―複数芸術の価値」『日下賢二木版画作品集』株式会社青年社
日下賢二2005「永礼孝二の思いで」『永礼孝二展』没後三十年記念永礼孝二展実行委員会



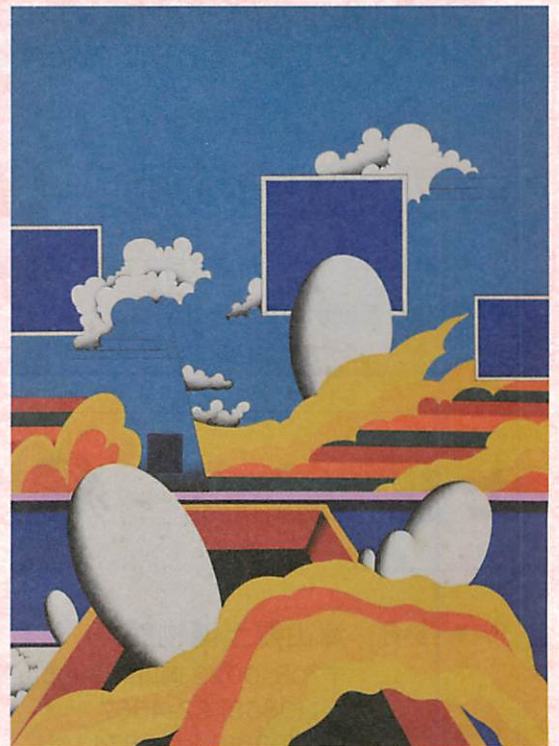
写真⑥ 赤い地平線81-2 (1981年)



写真④ 作品7 (1965年)



写真⑦ 飛翔85-3 (1985年)



写真⑤ 初夏の朝 (1973年)



写真⑧ 原画(右)と製作途中の作品 (ランプ1951年)

ミニ企画展「むかしむかしの子どもたち」を開催しています。

11月27日（土）～12月19日（日）まで、ミニ企画展「むかしむかしの子どもたち」を3階展示室の一部で開催しています。このミニ企画展は、岡山県立記録資料館で開催中の企画展「子どもへのまなざし」（10月19日～12月5日）との連携展示です。

江戸時代における美作の子ども達の姿を『美作孝民記』の挿絵などで紹介しています。



『美作孝民記』の挿絵



ミニ企画展「お正月ー虎ー」を開催します。

12月25（土）から令和4年1月10日（月）まで、令和4年の干支である寅（虎）を中心に、おめでたい資料を3階展示室の一部で展示する予定です。

企画展「郷土の刀剣ー新刀から現代刀までー」を開催します。

2月19日（土）から3月21日（月）まで、江戸時代に作られた新刀から現代刀まで、津山ゆかりの刀剣などを展示いたします。



博物館だより「つはく」
No.110 令和3年11月30日



〔編集・発行〕 津山郷土博物館
〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567
Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tvt.ne.jp

〔印刷〕 二葉

入館のご案内

〔開館時間〕 午前9:00～午後5:00
〔休館日〕 毎週月曜日・祝日の翌日
年末年始（12月29日～1月3日）・その他
〔入館料〕 一般…300円
（30人以上の団体の場合240円）
高校・大学生…200円
（30人以上の団体の場合160円）
65歳以上…200円
（30人以上の団体の場合160円）

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です

大は、津山松平藩の槍印で剣大といい、現在津山市の市章となっています。